

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事録

令和6年11月13日(水)10:00～15:30

千塚小学校 家庭科室

進行：教頭 記録：教務主任

委員) [] 様 [] 様 [] 様 [] 様
[] 様 [] 様 [] 様 [] 校長 8人出席
参加) 教頭 教務主任

1 会長挨拶

千塚小の教育は、素晴らしい先生方の指導でよい学校となっている。この後も、給食試食会等もあり盛りだくさんの内容になっているが、皆様の御意見をぜひお聞きしたい。

2 校長挨拶

持久走大会に向けて、一生懸命練習に励んでいる。集会や給食のなどを通して子どもたちの様子をよく見ていただき、ご意見をいただければありがたい。

3 本日の日程確認

4 発表集会（1・3・5年）見学

5 協議〔議事進行：会長〕

（1）学校の様子について（校長説明）〈スライドにて〉

- 全校遠足の様子、地域の方の協力によるありがたさを感じた行事であった。
- 3年地域巡り、6年修学旅行、5年国際交流を行った。
- リサイクル品回収 地域の皆様の協力で、多くの回収品が集まり、大変ありがたかった。
- 奉仕活動 PTAの方々に多く来ていただき、きれいになった。
- 4年宿泊学習、1・2年生校外学習の実施をした。
- 運動会では、全校種目、表現、障害走など実施、みんな一生懸命頑張ることができた。こういう機会に真剣に頑張ることが見られる行事となった。
- えのき祭は、授業参観、何でもコンサート、そして執行部が中心となって実施したアトラクション。ジャンボカルタ、ゲーム、駄菓子屋、読み聞かせなど、楽しんで活動できた。
- ふるさとを忘れない日本人としての取組
 - ・心のこもった挨拶、返事のできる子・・・挨拶運動
 - ・互いのよさや努力を認め合い思いやりのある子・・・ありがとうの木
 - ・人との関わりの中で・・・ワールドグループトークで、いじめについての話し合い、自分の考えを伝えることを重視し、授業でも高めるための方策を実施。
 - ・めあてをもち・・・業間の時間に4分間走、栄養教諭による食育指導
 - ・自治力を高めるために・・・自分たちがやることを自分で決める、手助け・後押し、子どもたちの達成感を得られるような取組
→自治力振り返りカードの紹介
- 笑顔で楽しく過ごし、明日も元気に来なくなる学校運営を心掛けている。

（2）学校評価について（教頭説明）〈資料1〉

- ① 職員・保護者・児童アンケート結果について
 - 教職員の評価では、昨年度と同程度の評価となっており、評価の下がった項目はなく、全体としてわずかながら評価が向上している。
 - 保護者の評価は微増微減が見られるが、全体として昨年と同様の評価である。
 - 全体として、「教職員の児童への関わり、学習指導、児童指導、学業指導」の項目では、児童は4項目についてベストの高い評価をしている。「児童は、学校が楽しいと感じている」については、保護者が高評価である。「教職員は、宿題・復習・自主学習など家庭学習について、しっか

り指導している」は3者とも評価を上げている。

- 項目 12 について、昨年度はワースト評価であったが、評価を上げている。学校課題として表現力の向上を掲げ取り組んでいる成果と考えられる。
- 項目 13 について、児童は評価を上げたが、教職員・保護者の評価の差が大きい。特に教職員は自信をもって「4 とても思う」と評価する割合がとても低かった。一単位時間の中で何を課題として何を学んだか、それをねらいと振り返りで充実させる授業作りを工夫できるよう教職員は強く意識して取り組みたい。
- 項目 14 について、保護者も児童もワースト評価である。教職員と児童の差はほとんどないが、保護者との差は大きい。家で読書する機会をどのように保護者が捉えているかの評価だと考えられる。
- 項目 15 について、挨拶ができる場面とできない場面がはっきりしているか。校外でも公共の場面で挨拶がしっかりできるよう、指導したい。また、自分ではしているつもりでも、伝わっていないことがある。
- 項目 19 について、児童・保護者の評価は、ベスト評価である。項目 21 について、教職員・児童共に評価が向上した。
- 項目 23、26、27 について、児童はワースト評価である。項目 26 について、教職員の全評価中最も低い評価であった。27 について、3 者とも昨年度より評価は向上したがワースト評価であった。生活に直接関わる身近な項目であるため、保護者の見方も厳しくなっている。
- 項目 28 について、教職員の評価は向上した。項目 29 について、児童の評価は上がっているが、教職員・保護者との評価の差が大きい。今までも様々な取組を行い、提案を行っているが、今後は教育課程に位置づけていきたい。
- 項目 33、34、35、37 について、教職員はベスト評価である。項目 35 は、保護者もベスト評価である。項目 37、38 については、教職員と保護者の差はあるが 8 割以上の高評価である。ホームページやメール配信を柱とする積極的な情報発信は、保護者の理解を得られているので、今後も継続していく。
- 項目 40 について、高評価となった。ワールドグループの活動は本校の特色の一つであるので、今後も継続・深化・発展させていきたい。

※ ご意見を 12/6（金）を目安に、ご提出をお願いします。

委員) 子どもたちの評価は、よく見てもらいたいという思いがあるように感じる。評価項目自体が、手厚い取組の評価となっていると思う。ある程度細かい評価は必要と考えるが、ここまですべてやってもよくなるものでもないと思う。自分の会社では、あいさつをしないことや、ものを壊しても謝らないこともある。先生方は夜電気が消えないことが多いので、ここまですべて細かくする必要があるのかと思う。学校に楽しく行くことが大切なのではないか。

→ 本校は、実際に項目数が多い。吹上地区の中でも多い。項目数を減らして評価しても良いと考えている。

委員) 保護者は学校に来ないので、評価することについて分からないこともある。学校のことは、児童を通じて知ることが多いので、学校全体のことなど、保護者の分かる範囲で設問を設定しても良いのでは。先生は細かくても良いと思うが、児童と保護者の項目を同じにする必要性はどうか。やった割には、効果が薄い。保護者と児童については、絞った方が良いのでは。去年も同様であるが、家庭との連携が密な項目の評価が低い。学習時間や睡眠時間、ゲームの時間など、挨拶であるとか、姿勢であるとか、家庭がどう関わっているかによって評価が大きく変わってしまう項目も多い。家庭教育と密接にしていかなないと、学校がどう働きかけるか、家庭にどう啓発していくのか、家庭教育の高まりが見えるような評価項目を作っていくとよいのではないかと。家庭はどうなのか、ポイントを出していかなないと、評価は上がっていかない。どういう形でやるのが良いのか、家でも読書の時間をもっているか、テレビは1時間以内ですんでいるか、子供が頑張っていたら褒めているかなどの評価をすれば、自分(親)の気付きが生まれる。学校評価を家庭と連携したやり方や評価項目を作り、意識してもらうことで意識の向上も図れると考える。

→ 評価を通して、気付きをもってもらえるように項目内容を検討していきたい。

委員) このような細やかな対応をしないといけない状況になっている。今は、ここまでしないと

子どもたちが育たない時代になっているのではないかと。指示をされないと、黙って立ったままの社員がいる。社会に出るときに身に付けなければいけない必要のことを家庭教育でしっかり教えていけば良いのでは。PTA組織の中で、伝えていけると良いのでは。

委員) 自分の子どもが親世代になってきている。家庭によって指導の仕方に差があり、親同士のコミュニケーションが希薄で、孤立している。なにもない状態であると、教育の仕方への気付きもない。地域の祖父母や家族も子育てに口出しできない状況もある。指針を示すことで、家庭教育が充実していくと思われる。読書や挨拶についてできていますかと聞くことで、気付きが生まれるし、どう子どもと接すれば良いか分かるのではないかと。食についても、うちは食べなくても良いという考えや、偏食の指導などについても、家庭ごとに多様性がある。

委員) 自分の子育てを客観的に振り返ることができたり、子どもと向き合えたり、コミュニケーションが深まったりするので、学校評価はいいなと思っていた。保護者と児童の評価の差がある項目が多い。親が子どもをあまり見ずに、子どもに望む姿と比べて評価をしているためか。先生と子どもの差は少ない。子どもと親のコミュニケーションが不足しているのではないかと。学校が楽しいという項目は上がっているの、よい傾向であると安心している。基本的な生活習慣は親を巻き込んで指導していく必要がある。

委員) 根本的な部分に分かっていないことが多い。なぜ大事なのか、大人が理解できていない。単純なことだが、子どももなぜ今必要なのか分かっていない。なぜ大切なのか分からないと、リビングにいる時間が今は増えているという話も聞きくが、家庭で教育することができないのではないかと。

委員) どんな育児書を見ても、睡眠時間のことが出ている。昼間学習したことを定着させるためには、睡眠が大切であるということや、睡眠不足の子どもは、学力が劣るというデータもある。睡眠時間や生活習慣がなぜ大切かを知っているだけで、変わっていると思う。

委員) もう少し子どもに目を向けてもよいのかと思う。宿題やった等の声掛けや確認をしていけば、やらなくてはいけないと思うのではないかと。少し手を掛けてあげれば、子どもの意識が変わってくるのでは。以前テレビで、宿題をやってこなかったから、給食を少なくするニュースがあり、インタビューやコメンテーターは、誰も親を責めないで、学校側を批判していた。我が家の会話では、親が悪いよね、という意見になった。給食を少なくしたことも当然悪いが、一番悪いのは、宿題をやらせない親だよねという話になった。

→ 宿題をやることを重視する家庭もあれば、宿題はやらなくてもよいと考えている家庭もある。家庭によって関わり方に差があり、サポートの仕方を変えていかなければならないと考えている。

委員) 家庭内でも、温度差はある。宿題についてはやった方がいいとは思いますが、惰性で行うものは、やらなくても良いのではと感じている。自分から積極的に取り組まないと、身に付くものも身に付かない。

→ 項目数は多いが、さくら連絡網を活用しているので、集計は楽になっている。項目数は多くて大変であるので、見直しは必要と考えている。次回の学校運営委員会で素案を提示できればと考えている。

委員) 回収率は？

→ 94～5%程度。期限直前に再送でお願いしている。

委員) 今の保護者の方は忙しいので、短時間でできるものが良いのでは。

(3) 働き方改革・業務改善について 〈資料2〉

① 学校行事等の見直しについて (教頭・教務主任説明)

○現在アンケート回収中。

○実施時期は大きく変更する予定はないが、運動会の平日実施について今後考えて行く必要がある。

(4) 学習指導・児童指導より (教頭説明)

① 学習指導だより 〈資料3〉

○家庭学習強調週間についてまとめたものを学習指導便りとして出している。

② いじめについてのアンケートまとめ 〈資料4〉

○7月に実施した、市で行っている無記名のアンケートを基にしている。

○いじめられたと答えた児童は、低・中・高学年共にいる。

○重大事態に発展するような事態ではないが、いじめと感ずることがあるので、細やかに見てくことや、誰かに話す・伝えることの大切さをしっかりと指導していくことが必要である。

委員) 教育相談週間はあるのか

→ 学期に1回ずつ教育相談月間として、事前にアンケートを取り、実施している。

(5) 小中一貫教育について(教頭・教務主任説明) <資料5>

○交流の説明(授業研究会・研修会等)

○小中交流だよりの発行予定。ICT活用や協働学習のことと、コミュニケーションの向上について重点目標として実施している。9割以上の高評価となっている。

(6) 今年度の取組より(教頭説明)

・PTA活動

→ えのき祭を新しい形で実施した、ボランティアの協力

・とちぎ未来アシストネット

→ 3人の地域コーディネーターにお世話になり、大変ありがたい。児童も地域に対して何かできる活動をとということで、宮スケートセンターでの奉仕活動について調整を図っている。

・危機管理(安全教育、不祥事防止)

→ いろいろな形の避難訓練を行っている。必要なことに関する避難の仕方を身に付けられるようにしている。今求められる力として、休み時間や予期しないときに起こる訓練を行っている。管理職不在時の訓練の必要性も考えている。

→ 不祥事防止について、夏に学校としての対応についてのコンプライアンス研修を行った。いろんな場面で一人ではなくチームで、複数で対応することの大切さを確認できた。報連相の重要性についても再確認した。

7 ご意見等

委員) PTA活動についての意見、無理して頑張っている人もいるが、基本的には自由であってよいと思う。子どもたちの休み時間の見守りなどすることで、子どもの様子、学校の様子が見られて、それぞれの様子が理解できると思う。プラスの部分があるのだよということが伝わると良い。

委員) できる人がやるということも大切だが、今しかできないから、という意識も大切にしたい。学校規模にもよるとは思うが、保護者が学校に関わる機会をなくすのはさみしいので、プラスになるということをもとに理解してもらえるのか伝えていく必要がある。

委員) 忙しい方もいらっしゃるが、年に1回くらいボランティアに来てもらうことも必要なのか、自由参加だから強制はしないということを考慮していくか、悩みどころである。

委員) 経験はしてもらいたい。やってみないと分からない部分が多い。執行部として学校に関わらせてもらえて良かった。私は今回、初めて授業参観に参加できた。

委員) PTA会長が話をする機会には、「学校に来るよさ」について伝えるとよいのでは。こんなこと良いところがありますよということを、保護者が集まる場で直接伝えたり、お便りに感想として保護者の意見を掲載したりして、意識改革をしていただけたら良いと思う。

委員) 1年の内に1回は、と義務づけても良いのかもしれない。

→ PTAの廃止について、社会で話題になっていることであるが、どのようにお考えか。

委員) PTA廃止については、しなくても良いと考えている。

委員) 地域コーディネーターがPTA執行部会に出席できるようにするとよい。PTAとアシストネットがどんなふうに連携できるのかが分かる。えのき祭などでも、全体的な動きが分かりやすい。そうすることで連携が取りやすくなるのではないかな。

委員) 全体を見通せる方が今までいたから良いが、連携がすごく必要。

委員) PTAとアシストネットの連携については、今後も検討課題。

8 事務連絡

- 第3回学校運営協議会 令和7年1月30日（木）13:30 ～ 15:00

9 給食配膳見学・試食会：ランチルーム